

ればいけません。それが経済的でクリーンであればあるほどいいのですが、コストと安定供給の問題が一番大きなポイントになると思います。

そういう意味で当面は天然ガスを利用し、その間に国策として、日本はエネルギーをどうするのかしっかりしたビジョンをもち、一本に絞って研究するべきだと思います。

またエコシティやクリーンエネルギーは二つの面があります。エネルギーを変えろという意味と、今のエネルギーを効率よく使うという意味で、区別して考えることが必要です。

司会

天然ガスの基地になった時、公害という面ではどうですか。

富田校長

公害の面からは大丈夫です。ただ、液化天然ガスは自然に少量ですが気体として蒸発します。この蒸発するガスは、陸上ではそれぞれの用途に使用しますので危険はありません。

天然ガスを運ぶ船舶、陸上での貯蔵タンクに、突発的な事故でガス漏れが起こり着火すれば爆発の危険性があります。しかし、想定できる事故に対しては、二重、三重に十分な対策が取られていますから安心していただきたいと思います。



LNG船

上西会頭

LNGタンクが作られた初期の1944年に、アメリカのオハイオ州でLNGが漏れて下水溝内に流れて行き、それが爆発して死傷者が出たということがあったようですが、それ以降は防液提を備えたため事故は起こっていないようです。

富田校長

大丈夫です。先ほども申し上げ

ましたように、タンク内での自然な蒸発を完全に止めるのは困難ですが、蒸発したガスをそれぞれ利用しています。例えば液化天然ガス運搬船(LNG船)は蒸発するガスを燃料として運航しています。このように、液化ガスの状態から自然に蒸発して気体になるのを止めるのは困難ですが、これを意図的に使用して処理していますので危険はありません。



パイプライン

司会

一口にエネルギー基地といいますが、舞鶴にそんな広い土地がありますか。どれくらいの面積が必要なのでしょう。

小野校長

天然ガスは、LNG船でもってくると大きな受け入れ基地が必要ですが、今はガスを圧力容器に入れて気体で持ってこようと考えています。その方法ならそんなに大きな設備はいりません。舞鶴と京阪神地区をパイプラインで結んでおき、例えばコンテナ船で圧力容器により大陸から運んできたガスを、このパイプラインによって京阪神に運ぶ方法も考えられます。

富田校長

液体で運ぶのか、気体で運ぶのか、いずれにせよ運搬上の問題は技術的に簡単に解決できます。

小野校長

これからのエネルギーは、CO₂の削減とか不安定な石油情勢などにより、天然ガスにせざるを得なくなってきました。そのとき京都舞鶴港はクリーンエネルギーの集合基地として、京阪神地区のバックアップ機能を果たすことを期待しています。

上西会頭

舞鶴より先に他の都市が動くのが心配です。

小野校長

ですから舞鶴がいち早くエコシティ宣言して、市民挙げて環境・エネルギー問題に取り組んでいる姿を見せれば、国も舞鶴に関心を向けると思います。

先ほどのパイプラインの話ですが、海外ではパイプラインを高速道路にくっつけて造っているところもあります。だけど日本は縦割り行政のためか、実現できていません。

司会

今、高速道路を利用すれば、ほとんど全国に繋がる状態ですね。

小野校長

高速道路にパイプラインをくっつけて、これによってガスを運べば良いし、そうすると阪神へは敦賀より舞鶴が近くなり、パイプラインの建設費も少なくて済みます。また山間部を通過しているので問題が少ないのではないかと思います。

富田校長

とにかく大陸から沿岸部まで来たガスを、舞鶴までどう運ぶか、舞鶴から消費地までどう運ぶかを検討するのが先になりますね。

司会

それともう一つ疑問が出てきたわけですが、舞鶴にエネルギー基地を設置すると舞鶴にお金が落ちますか。

小野校長

お金は落ちます。新しい産業ができれば雇用が増えるので、人口も増えることが予想されますし商店街なども活性化したいと思います。

しかし、舞鶴市がこうしたいという明確な意思をもって動いてくれなければ、我々がいくらお手伝いをして空回りになります。将来いろんなところが潤うから一緒に勉強しようという雰囲気を作り、市民全体が盛り上がる必要があります。

人材育成・技術力強化は学校教育から

司会

エネルギー基地ができればその関連産業に人が集まり、人口も増えるのは素晴らしいことです。市民全体が盛り上がるために、そう